



令和4年11月22日(火) 晴 No. 18



▲会長挨拶



▲大辻利紀会員の卓話

会長の時間

会長 芝本 忠雄

皆様、こんにちは。

11月も下旬に入り、朝晩が冷え込んできておりますが、如何お過ごしでしょうか。私的には絶好の季節を過ごしています。

さて、本日の例会にあたり、何か気の利いたお話をと思案しておりましたが、なかなか見つかりません。そこで今日は、地元加古川で先日開催されました加古川レガッタの誕生秘話をお話させて戴きます。

1990年社団法人加古川青年会議所では、長澤理事長(元加古川RC)のもと、加古川発見発明委員会という委員会が設けられ、いま加古川ライオンズクラブで活躍中の住田さんが委員長で、私が副委員長を務め、幹事が尾上ゴルフの尾崎さんでした。委員会メンバーには、当クラブの岡田さん、中原さんもおられました。与えられた職務分掌は、加古川地域で何か発見し、そして発明しなさい。というものでした。正月早々に高御位山に登って、地域を見下ろしながら何かないかと思案したり、市役所に掛け合ったり、試行錯誤して3月も終わりになろうかと焦っている時に専務理事の中嶋さん(元加古川RC)が委員会に来られました。苦悩で低迷しているメンバーに、朝日新聞さんとのゴルフ帰りの車が、加古川大堰に差し掛かったときに大堰の水たまりを見て「ここでレガッタが出来るのでは?」と言われたよ。とポツリと一言。メンバー一同「これや!」と早速、関西学生漕艇連盟の学生にアポ取りし、果たして加古川でボート競技が出来るのか? を視察に来て戴きました。学生たちは、歩幅で上荘橋の橋桁の橋脚間の寸法を測ったり、直線でどれくらいの距離のコースが取れるのか、熱心に観察されました。結果、「ここだと2000mの直線コースが取れますよ。」とのいい返事を戴きました。早速、「ここで大会をやってくれないか。」と要望すると、「毎年秋に琵琶湖漕艇センターで新人戦を行っているが季節柄強風が吹いて中止になることが多いので、その大会でしたら、加古川で開催出来るかも知れない。4月15日関西学生漕艇連盟の主務会議があり、そこで年間計画を発表するので今だったらギリギリ間に合います。」と好返事。

それからが大変。ビデオカメラを購入し、神野西条の山に登り、コース全景を撮影したり、車窓からコースを写したりして、プレゼン資料を作成し、瀬田川湖畔の京大合宿所での連盟の会議に赴き、1時間のプレゼン。学生たちは、「俺たちはイベント屋ではない。」

というので、「君たちがこれを機に毎年加古川で大会を開くことで加古川の町が変わるんや。」と市長みたいに熱弁を奮い、開催の約束を取り付けました。まさかまさか2週間の間の出来事です。

それから実施に向けて、当時の建設省、兵庫県東播磨県民局、加古川市との協議を重ね、実行することが出来き、開催当日は、加古川ツーデーマーチのコースも変更し、ウォーカー達が土手歩きながら観戦出来るようにし、治水目的の大堰の利水活用を見て戴きました。

その後、加古川市は漕艇センターの建設を進め、1996年、加古川漕艇センターの開設を果たしました。竣工式で久寿玉を割ったのは、なんと、その年の理事長を務める私だったのです。

あれから今年で33回目の大会となりました。今は、その漕艇センターで、ボート競技以外にカヌーのオリンピック代表団の合宿が行われたり、加古川西高校ボート部が毎年のように国体、インターハイに出場、関関同立をはじめ多くの大学にボート競技の推薦で進学が薦められるまでになりました。また夏の加古川市民レガッタも30回の開催を重ね、市民にも定着した行事となっています。

今考えても、ゾッとする、嘘のような本当の夢が実現した話をさせて戴きました。

本日の卓話は、大社会員にお願いしております。お相撲のお話を楽しみにお聞きください。

これで会長の時間を終わらせて戴きます。本日もよろしくお願い申し上げます。

幹事報告

- 1) 西宮恵比寿 RC より12月18日(日)加古川市民会館で上映される西宮発信の映画「にしきたショパン」のご案内を頂いておりますので回覧します。また、チラシをテーブルにおかせていただいておりますので、ご興味がおありの方はお持ち帰りください。
- 2) 次週11月29日(火)の例会はプロバスクラブとの合同例会で、場所・時間が変更になっております。場所:加古川プラザホテルボールルーム、時間;午後6時~です。ご出席予定の方、よろしくお願いいたします。

ニコニコ



- | | | | |
|---|---|---|------------------------------|
| 省 | 略 | ☺ | 大辻さん、本日の卓話よろしくお願い致します。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、卓話宜しく致します。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、ご子息の健闘を祈ります。本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、卓話楽しみです！ |
| 省 | 略 | ☺ | 本日卓話、つたない話になりますが宜しく致します。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大辻さん、卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 長い間欠席してすみませんでした。 |
| 省 | 略 | ☺ | 大社会員、卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | テーブルの花いただきます。 |

以上12件 ¥16,000-
本年度累計¥982,000-

出席委員会

☆ 今 週 会員数 71 名 出席 40 名 出席免除 13 名 欠席 18 名

☆ 欠 席 者 省略

☆ 前 々 週 会員数 71 名 出席 26 名 出席免除 20 名 欠席 25 名

親睦活動委員会

例会場当番

11月29日(火) 穴田、野際

12月 6日(火) 吉田、小田



プログラム委員会

本日11月22日(火)	11月29日(火)	12月6日(火)	12月13日(火)
卓話 「大相撲パート2 泣き相撲編」 大辻担当	プロバスクラブとの 合同例会 (時間・場所変更) 午後6時～ 於;加古川プラザホテル ボールルーム 社会奉仕委員会担当	総会 クラブ協議会 次年度 理事選挙	卓話 「特許を取得した 適正ハブラシ 『テキアツ君』」 中原担当

進むべき道は明らか:世界の保健リーダーがポリオ根絶について語る

ロータリーとWHOの共催イベント「World Polio Day 2022 and Beyond」にグローバルヘルス分野のエキスパートが出席

World Polio Day 2022 and Beyond イベントの録画をご覧ください

10月21日と22日、ジュネーブ(スイス)の世界保健機関(WHO)本部で開かれた国際ロータリーとWHOの共催イベント「World Polio Day 2022 and Beyond」で、グローバルヘルス分野のリーダーがポリオ根絶への自信を示し、最前線で活動するヘルスワーカーたちを称えました。

このイベントでは、対面式の参加者とオンライン視聴者にポリオ根絶の最新情報が伝えられたほか、母子の健康改善のために予防接種以外にも地域社会で取り入れることのできる解決策について話し合われました。

開会セッションでは、テドロス・アダノム WHO 事務局長が「ポリオ根絶は手の届くところにある」と述べ、**世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)**の努力によってポリオの症例が99.9%削減されたことに触れました(1988年に35万件だった症例数が去年はわずか6件)。しかし、今年にはパキスタンで20件、アフガニスタンで2件の症例が出ており、状況が不利となっていることも指摘。野生型ポリオウイルスが常在するのはこの2カ国のみである一方、米国でポリオの患者が出たことや、英国の下水からポリオウイルスが検知されたことは、「ポリオが世界から根絶されない限り、引き続き世界の脅威である」ことを示しています。マラウイとモザンビークでも、昨年と今年、ポリオの症例が確認されています。

「誤った情報、予防接種が行き届きにくい人びと、地域社会の疲労感など、今も多くの課題に直面しています」と事務局長。新型コロナウイルスが主な原因となってポリオ予防接種プログラムが大幅な中断に直面したことも、近年の課題となっています。「足並みをそろえて行動しなければ、これまでの成果が後退することになります」



10月21日にジュネーブ(スイス)で開かれた「World Polio Day 2022 and Beyond」のイベントで「あと少し」のサインをする出席者たち。



イベントに集まった出席者たち。

こうした課題に対応するため、GPEI の 2022-2026 年ポリオ根絶戦略は、成果が実証されたソリューションや革新的な手段を用いています。10 月上旬にベルリン(ドイツ)で開かれた世界保健サミットでは、**ロータリーを含むドナー**らがこの戦略に 26 億米ドルを投入することを約束。この資金は、ポリオ常在国および最近ポリオが発生した国でのポリオ予防接種に充てられるほか、新型経口ポリオワクチン 2 型(nOPV2)の導入にも活用されます。この新型ワクチンは、従来のワクチンの遺伝子を組み替えたもので、伝播型ワクチン由来ポリオ(変異型ポリオとして知られる)を発生させる可能性がより低いものです。

この資金はさらに、GPEI が力を入れている、医療のあらゆるレベルにおける女性のエンパワメントにも活用されます。「根絶の実現には、ジェンダー平等が不可欠です。なぜなら、ポリオの影響下にある国の多くでは、自分以外の家や子どもへのアクセスが認められているのは、女性だけだからです」

事務局長はさらに、WHO が引き続きポリオ根絶に最優先で取り組んでいくことを強調しました。「ロータリーのご支援があれば、子どもは歴史の教科書だけでポリオを知ることになるでしょう。そのような未来が一日も早く来ることを願っています」

このイベントではこのほかに、WHO ポリオ根絶ディレクターのエイデン・オリーリー氏、UNICEF(国連児童基金)ポリオ根絶ディレクターのステイブン・ロウエルアー氏、ドイツ国連常駐副代表のハンス-ペーター・ユンゲル大使などが話しました。

「ポリオ根絶は実現可能なだけでなく、手の届くところにある」とオリーリー氏が述べたほか、ロウエルアー氏は、すべての子どもにポリオ予防接種をすることが引き続き優先であり、「ワクチンが容器に入ったままでは、何も変わらない」と述べました。

RI 会長のジェニファー・ジョーンズ氏と『TIME』誌編集者であるジェフリー・クルーガー氏との質疑応答セッションでは、「素晴らしい進展を遂げており、ここまで来たことを誇りに思うべき」とジョーンズ会長が述べました。

イベント二日目には、予防治療と母子の健康に焦点が当てられたほか、地域ごとのニーズと協力の機会について分科会ディスカッションが行われました。



10月21日にジュネーブ(スイス)で開かれた「World Polio Day 2022 and Beyond」のイベントでポリオ根絶活動について話す、国際ロータリーのジェニファー・ジョーンズ会長と『TIME』誌編集者ジェフリー・クルーガー氏。

世界ポリオデー特別プログラムで予防接種の重要性を強調

ロータリーが配信した **2022 年世界ポリオデー特別プログラムの動画**には、グローバルヘルス分野のほかのエキスパートが登場し、ポリオをはじめワクチンで予防可能な疾病から身を守る唯一の手段としての予防接種の重要性を強調しました。

WHO(東地中海地域)ポリオ根絶ディレクターであるハミド・ジャファリ氏は、マラウイとモザンビークでポリオ発症者が確認されたことや、ニューヨーク、ロンドン、イスラエルで変異型ポリオウイルスが検知されたことは、ポリオが今も脅威であることを示す例だと述べました。「ポリオウイルスがどこかに残っている限り、子どもや未接種者の脅威であり続けます」

一方、米国疾病対策センター(CDC)ポリオ根絶支部長であるジョン・ヴァーテフェル氏は、ポリオの感染が食い止められた後にもサーベイランス(監視活動)を続けることの重要性を指摘しました。「根絶と封じ込め、そして根絶認定プロセスでは、引き続きサーベイランスがとても重要な役割を果たします。認定後にもポリオウイルスの感染が食い止められ、努力して勝ち取った“ポリオのない世界”を維持していく必要があります」

パキスタンでの全国予防接種プログラムに携わる専門家たちは、すべての子どもに確実にポリオワクチンを投与するための **GPEI のジェンダー戦略**と最前線の女性ヘルスワーカーの重要性について話しました。パキスタン連邦予防接種局長であるソフィア・ユヌス氏は、「女性は男性のワクチン投与者から接種されることをためらいます。どんな戦略や活動でも必ず女性を起用するようにしています」と述べます。

「World Polio Day 2022 and Beyond」のイベントでオリーリー氏が語ったように「進むべき道は明らか」です。「私たちには、手段と戦略、そして断固とした焦点があります」